



「人に優しい医療」への貢献

ディーブイエックス株式会社
株主通信

2019年3月期第2四半期報告書

2018年4月1日から2018年9月30日まで

証券コード3079



Dvx ディーブイエックス株式会社

代表取締役社長

千葉 茂

 株主の皆様へ

To Our Shareholders

売上は前年同期比増収となりましたが、
移管業務委託収入の減少などにより、減益となりました。

Q 当第2四半期累計期間の業績について総括をお願いします。

A 2018年4月に実施された診療報酬の改定により、当社
が取り扱う多くの医療材料の保険償還価格が引き下げら
れました。この引き下げに伴い、販売先である医療機関からの

値下げ要請、仕入先であるメーカーからの値上げ要請への対
応が求められました。

このような厳しい事業環境に対して、当社は既存顧客の深耕と
営業エリア拡大による新規顧客の獲得に努め、その結果、当第2
四半期累計期間の業績は売上高197億5千万円(前年同期比
4.5%増)、営業利益4億8千万円(同36.7%減)、経常利益4億9

千3百万円(同36.7%減)となりました。

Q 不整脈事業の市場の見通しと事業戦略についてお話しください。

A 今後も保険償還価格の下落は避けられないものの、高齢化の進行による患者数の増加、新商品による適応症例の増加を要因に、不整脈治療関連市場は中期的に堅調な市場拡大が続くと見込んでいます。

当社は、高度な専門性を活かした付加価値の高い提案型営業により既存顧客の取引拡大と新規顧客獲得を進め、また、営業所開設による商圏エリア拡大を図ります。

なお、営業所については2018年8月に千葉営業所を、10月に京都営業所を開設しました。

Q 虚血事業の市場の見通しと事業戦略についてお話しください。

A 虚血事業関連市場のうち、心臓血管カテーテル治療(PCI)領域はすでに成熟市場となり市場の成長は見込めませんが、末梢血管カテーテル治療(PTA)領域が新たなカテーテルの治療領域として、大きな市場となることが期待されています。2018年3月期に自動造影剤注入装置関連の輸入販売を終了しており、当社の虚血事業売上は大きく減少しましたが、当社はこれまでの実績と経験を活かして、引き続き医療現場のニーズにかなうオンリーワン商品の獲得や開発に努め、商品ラインナップ拡大を図ります。

Q エキシマレーザ血管形成システム関連製品の独占販売期間が2020年12月で終了しますが、業績に与える影響についてお話しください。

A 2018年8月14日に公表したとおり、Spectranetics社のエキシマレーザ血管形成システム関連製品の日本国内における製造販売業の承認を2018年12月31日付でフィリップス・ジャパン社^{*}に移管いたします。主要なエキシマレーザ血管形成システム関連製品の独占販売期間は2019年12月31日まで(リードマネジメント製品は2020年12月31日まで)継続され、独占販売期間後も非独占販売代理店として販売を継続していく予定です。

なお、製造販売業の承認移管に関してはその対価としての収益を見込んでおります。

Q 8月に実施した自己株式の取得の目的についてお話しください。

A 当社の近年における自己資本の増加、資本効率の低下の趨勢を踏まえて、資本政策の柔軟性および機動性を確保することを可能とするために自己株式の取得を行いました。現在発行済株式数の4.01%を自己株式として保有しております。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 当社では、今後の事業展開のために必要な内部留保資金を確保しつつ、株主の皆様に対して長期的な利益還元を行うことを基本方針としております。

この方針のもと、2018年3月期より配当性向を30%を目途として配当額を決定する方針に変更いたしました。

適切な事業戦略の展開と資本効率向上に取り組み、利益拡大による配当額の増加を図ってまいります。

なお、2019年3月期は1株当たり1円増配の24円(配当性向29.3%)を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも末永いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ミッション(企業理念)

● 私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。

● 目標に向かって個々の力を最大限に発揮する『心』ある社員により集団を結成し、確かな未来を見据え、目的意識を明確に保持し、変化に対応する新しい企業です。

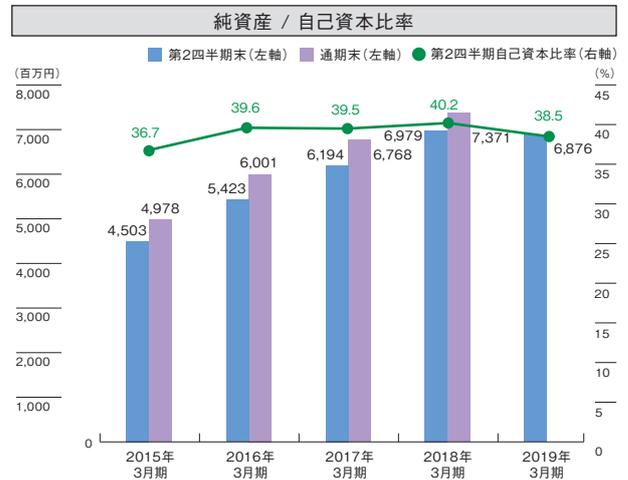
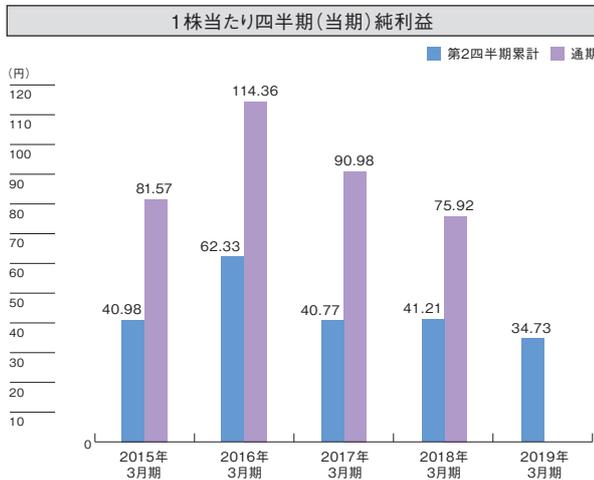
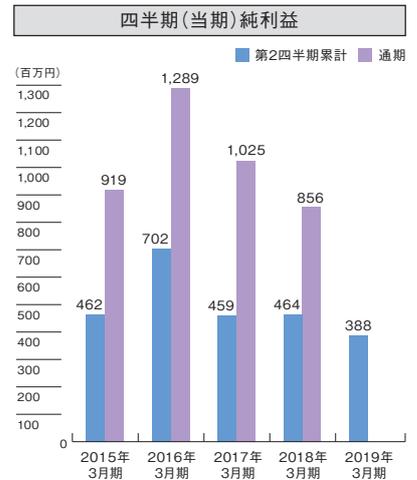
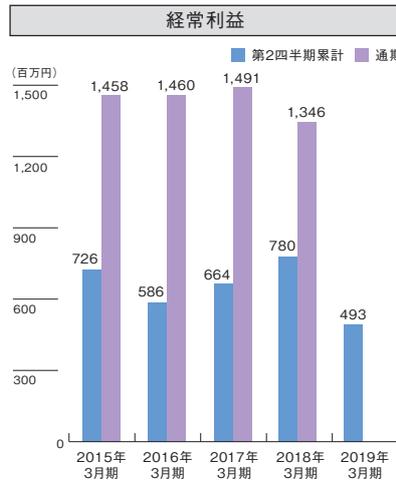
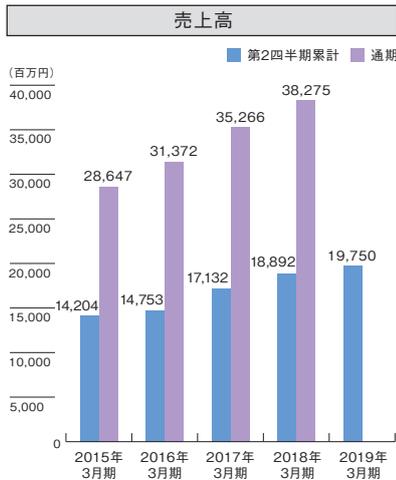
^{*}フィリップス・ジャパン社はSpectranetics社を買収したロイヤル フィリップス社の日本法人です。

財務ハイライト (2018年4月1日~9月30日)

当第2四半期決算のポイント

前年同期比増収を達成するも、減益となりました。

当第2四半期累計期間の売上高は197億5千万円(前年同期比4.5%増)、営業利益は2017年5月まで販売していた自動造影剤注入装置の取り扱い終了の影響のほか、同装置の移管業務委託収入の減少などにより4億8千万円(同36.7%減)、経常利益は4億9千3百万円(同36.7%減)、四半期純利益は3億8千8百万円(同16.3%減)となりました。



ポイントの解説

1 売上高

2017年5月まで販売していた自動造影剤注入装置の取り扱い終了および同装置の移管業務委託収入の減少による減収要因はありましたが、不整脈事業で主力商品の販売数量が増加したこと、虚血事業ではエキシマレーザ関連商品が堅調に推移したことなどにより当第2四半期累計期間における売上高は、前年同期比で4.5%増加し197億5千万円と増収を達成しました。

2 営業利益

既存事業の増収効果による増益が8千万円ありましたが、自動造影剤注入装置の取り扱い終了や同装置の移管業務委託収入の減少による減益要因が3億3千5百万円あり、当第2四半期累計期間における営業利益は、前年同期と比較して2億7千9百万円、36.7%減少し4億8千万円と減益となりました。

事業セグメントの状況

不整脈事業 Arrhythmia Business

当第2四半期累計期間実績

売上高176億1千3百万円

高度な専門性を活かした提案型営業による既存顧客に対するサービスの充実に努めるとともに、新規顧客の開拓にも注力いたしました。その結果、カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)治療用カテーテル類や検査用電極カテーテルなどの主力商品の販売数量が増加したことから、当第2四半期累計期間の売上高は176億1千3百万円(前年同期比7.4%増)、セグメント利益は20億7千2百万円(同1.2%増)となりました。



電極カテーテル

不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理検査用カテーテル、およびアブレーション(焼灼)治療用カテーテルなどがあります。

売上高
197億
5千万円

事業セグメント別売上高構成比

■ 不整脈事業	89.2%
■ 虚血事業	7.7%
■ その他	3.1%

*「その他」においては、脳外科商品、一般外科商品、消化器商品、放射線防護用品などを販売しております。

虚血事業

Ischemia Business

当第2四半期累計期間実績

売上高15億2千9百万円

輸入総代理店として取り扱っているエキシマレーザ関連商品の販売は堅調に推移しましたが、2017年5月まで販売していた自動造影剤注入装置の取り扱い終了の影響のほか、同装置の移管業務委託収入が前年同期と比較して減少したことから、当第2四半期累計期間の売上高は15億2千9百万円(前年同期比22.8%減)、セグメント利益は4億4百万円(同43.4%減)となりました。



エキシマレーザ血管形成システム

現在日本国内において「エキシマレーザによる心内リド除去術」「エキシマレーザによる冠動脈形成術」の2つの治療に適用が認められています。

営業の概況

Operating Results

保険償還価格の引き下げにより医療機関からは値下げ要請、仕入先メーカーからは値上げ要請があるなど厳しい環境にありましたが、既存顧客の深耕、新規顧客開拓、独自商品の販売拡大、新商材の開発・獲得に注力するなど全社的な取り組みを継続して行っております。

2019年3月期(通期)の業績予想

Outlook

当初の通期業績予想を据え置いております。

2018年4月に保険償還価格の改定が行われた影響はありましたが、不整脈事業が堅調に推移したことから、売上高は概ね計画どおりに推移しております。

2019年3月期(通期)の業績予想に対して当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益の進捗率は低くなっておりませんが、第3四半期以降にSpectranetics社製品の日本国内における製造販売業の承認移管業務に対する収益などが見込まれることから、2019年3月期通期の業績は当初計画どおりと見込んでおります。

2019年3月期の業績予想

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2019年3月期	41,587	1,346	1,346	900
2018年3月期(実績)	38,275	1,320	1,346	856
増減率(%)	8.7	2.0	0.0	5.2

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.dvx.jp/ir/index.html>

最新のIR情報を掲載しています。

dvx

検索

Front Line ー自社企画商品および新規取扱商品ー

当社は、「私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。」というミッションを掲げております。
2019年3月期の取り組みとして、新たに上市を目指し準備を進めている2つの新商品をご紹介します。

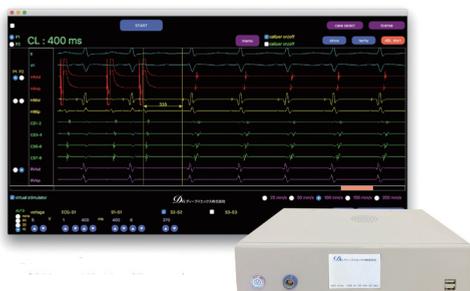
不整脈シミュレーター「EP TRAINER」

「EP TRAINER」は、スティミュレーターの操作トレーニングをメインに、電気生理検査(EP)や心筋焼灼術(ABL)の基礎知識を学習し、手技中の素早い判断や先を読んだ機器操作技術を身につけることを目的とした商品です。

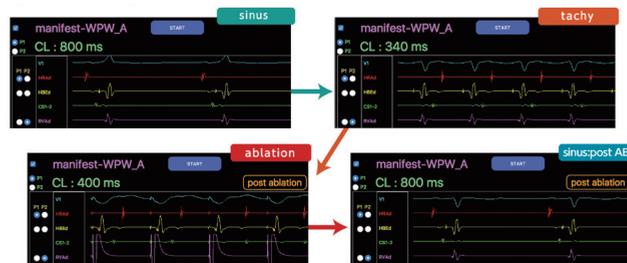
また、心臓カテーテル室の外でもトレーニングを行っていただけるよう“疑似スティミュレーション機能”や、不整脈知識を深めていただくために“簡易チュートリアル”なども付属しています。

当社は、本商品により、国内不整脈市場のさらなる拡大をけん引する企業としての存在感を示すことができると期待し、2018年度中の上市を目指し準備を進めております。

特許
出願中



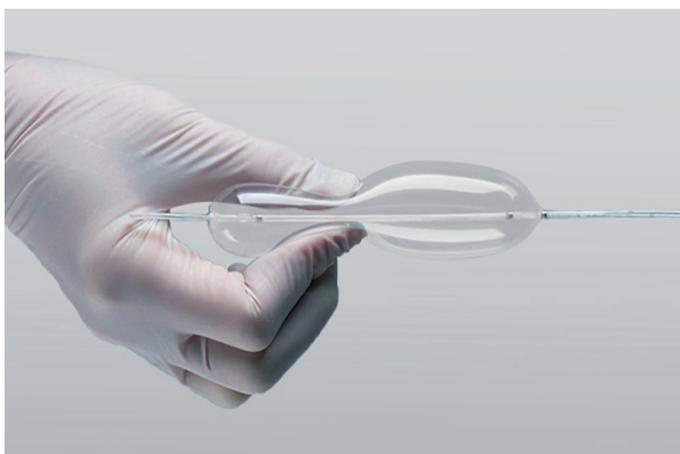
再現症例の一例



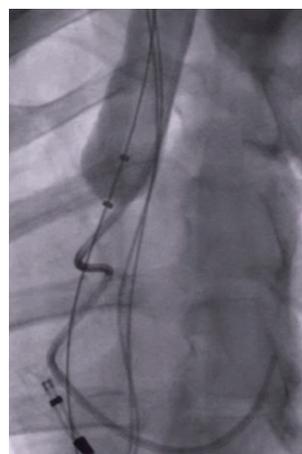
「Bridgeオクリュージョンバルーンカテーテル」薬事承認取得

当社は、2018年9月にSpectranetics社製のBridgeオクリュージョンバルーンカテーテルの薬事承認を取得しました。

本商品は、当社が日本の医師とともに広めてきた経静脈によるリード抜去手術において、最も顕著なブレイクスルーとなる画期的な商品です。リード抜去手術中の上大静脈(SVC)の裂傷は、0.5%以下の発生率ですが、発生した場合は、早急な外科的処置が必要となります。Bridgeオクリュージョンバルーンは、外科的処置までの『懸け橋(Bridge)』として、SVCからの大量出血をコントロールすることで、SVC裂傷からの生存率を56.4%から91.7%に上昇させたとの海外文献もあり、リード抜去手術の安全性をさらに高める商品として期待し、2018年中の上市を目指し準備を進めております。



バルーン部分がやわらかくなっており、血管内でフィットするようになっています。



写真は、実際に上大静脈でバルーンを膨らませた透視画像です。



インフォメーション

会社の概要 (2018年10月1日現在)

商号	ディービエックス株式会社 (DVX Inc.)		
設立	1986年4月1日(昭和61年4月1日)		
資本金	3億4千4百万円		
本社所在地	東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル5階		
代表者	代表取締役社長 千葉 茂		
従業員数	295名		
事業内容	医療用機器ならびに関連周辺機器の輸出入および製造販売業、修理業、リース業 医療用機器ならびに関連周辺機器の研究・開発 医療および医療用機器全般のコンサルティング業務ならびにサービスの内外提供 医療出版および市場調査を含む関連サービスの内外提供		
営業所	北海道営業所	茨城営業所	群馬営業所
	埼玉営業所	千葉営業所	東京営業所
	八王子営業所	横浜営業所	静岡営業所
	沼津営業所	浜松営業所	名古屋営業所
	大阪営業所	京都営業所	広島営業所
	福山営業所	九州営業所	
出張所	仙台出張所	栃木出張所	
	山梨出張所	福井出張所	
	宮崎出張所	沖縄出張所	

役員 (2018年9月30日現在)

代表取締役会長	若林 誠	社外取締役	村松 光春
代表取締役社長	千葉 茂	社外取締役	堂垣内 重晴
取締役副社長	柴崎 浩	常勤監査役	戸田 幸子
取締役	鍋谷 正行	監査役(社外)	三縄 昭男
取締役	平能 直弘	監査役(社外)	中村 真一
取締役	宮本 聡		

大株主 (上位7名) (2018年9月30日現在)

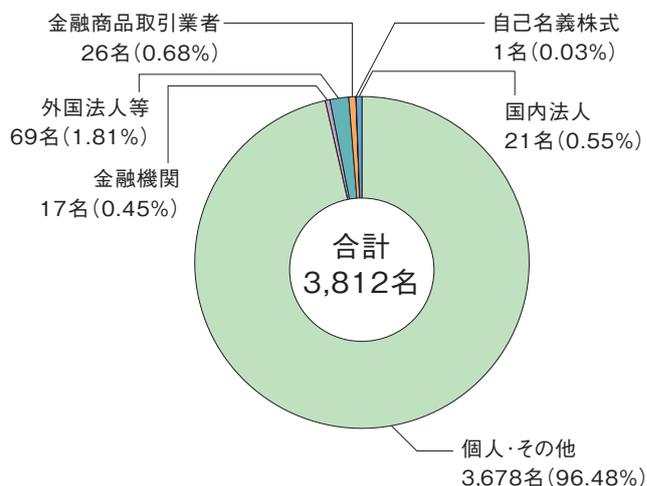
株主名	持株数	持株比率
株式会社MSS	3,192,800株	29.49%
若林 誠	1,242,000株	11.47%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	698,000株	6.45%
SKANDINAVISKA ENSKILDA BANKEN ABFOR HEALTHINVEST SMALL AND MICROCAP FD	552,400株	5.10%
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	377,600株	3.49%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	285,500株	2.64%
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	175,800株	1.62%

(注)持株比率は、自己株式(452,621株)を控除して計算しております。

株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	11,280,000株
株主数	3,812名

所有者別株式分布状況 (2018年9月30日現在)



株主メモ (2018年9月30日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当受領株主確定日	3月31日
中間配当受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel. 0120-232-711(通話料無料)
同郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.dvx.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



ディービエックス株式会社
<http://www.dvx.jp/>

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号 目白中野ビル5階
電話 03-5985-6827 Fax 03-5985-6106



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。